

メッセージ

高校 19 期（1967 年卒） 川上 貴司

皆さんより少しだけ長くハンドボールに携わってきた事でお許しを頂き、私のハンドボール歴を披露させて頂こうと思います。

私は幼少時代を市内港区で過ごしました。当時は今と違って空き地も多く遊ぶ場所には事欠きませんでした。野球が盛んで、たまたま近所に元南海ホークスから読売ジャイアンツでサードを守っていた富田勝さん（興国高～法政大）や野球好きの少年達が大勢いた事もあり、本当によく野球をしました。「将来はジャイアンツの長嶋選手のようになりたい」と真剣に思っていたのですが、親の意向で 6 年生から 1 時間以上かけ天王寺区の小学校、中学校に通学する事になり（越境入学）、残念ながらその夢は遠ざかってしまいました。根っから運動好きだった私は高校では小柄な体をあまり気にしないで済む柔道をとっていたのですが、入学後まもなく部室前で久岡さん（18 期）に呼び止められ、放課後の練習見学を勧められました。初めて見たハンドボールはスピード感があり、走・投・跳がミックスされたなかなか面白そうなスポーツで、未経験でしたがすぐ入部する事にしました。以後約半世紀のお付き合いになります。

当時の練習方法は 11 人制から 7 人制に移行してまだ日も浅かったせいか、11 人制の練習方法が色濃かったように思います。林さん（13 期）には競技が過渡期であったにも拘わらず基本をしっかり指導頂きました。同期は経験者で強肩の森田、テクニシャンの玉井、そして私の 3 人だけでしたが、林

さんの熱心で丁寧な指導のお陰もあり、素人の私でも短期間で 2 人に近づけたように思います。何事も貪欲に吸収できる時期に、林さんのような基本を大事にする指導者に巡り会えた事は本当に幸せだったと思います。上級生では南原さんのパワフルなステップシュートや佐藤（健二）さんの右足ジャンプシュート、東中さんの個性的なプレーなどが印象に残っています。

1 年生の夏の合宿では先輩方が大勢グラウンドに来られ指導を受けました。一週間炎天下での猛練習でした。早朝・午前・午後 の 3 部練習で全員ほぼ体力の限界だったと思います。練習中の水分補給は制限され、そのためどうしても練習後一気に水分を摂る事になり、私は悪循環の結果食欲が減りスイカなどの果物以外食事は少量しか喉を通らなくなっていました。当然体力も低下し少し風邪気味で微熱があったにも関わらずそれを言い出せずにそのまま練習を続けていた所、合宿最後の練習中意識が朦朧となってグラウンドに倒れ込んでしまいました。手足がしびれ感覚がマヒしていましたので今で言う「熱中症」だったかも知れません。私はすぐ学校の保健室に運びこまれ、先輩方の迅速で適切な処置で事なきを得たのです。顧問の今中先生、山岡先生（故人）はさぞ肝を冷やされたに違いありません。チームメイトや関係者の皆さんには随分心配やご迷惑をかけましたが、合宿を終え疲れた体で私を自宅まで送って頂いた先輩の安堵の表情が今も忘れられません。両親は突

然の事で驚いたと思いますが、父親は息子の不始末のお詫びとお世話になったお礼こそ言え、関係者に苦言や苦情を一切言いませんでした。今ならきっと大騒ぎになっていたかも知れません。そんな事もありましたが私のハンドボールへの思いは逆になります強くなり、両親の心配をよそに休養後しばらくしてチームに復帰しました。

現役時代ハンドボールへのモチベーションを高めるきっかけになった出来事が二つありました。一つは1964年に開催された東京オリンピックです。テレビの画面で見る世界のトップアスリートが躍動する姿や日本選手の活躍を毎日食入のように見ていました。ハンドボールが初めて1972年のドイツ、ミュンヘン大会で正式種目になる可能性がありましたので、8年後に私も彼等と同じ世界の舞台に立ってみたいと思ったのです。もう一つは浅野さん(12期) [*京大OB、1963年スウェーデンでの第1回世界学生選手権大会(ユニバーシアード)全日本学生代表選手、監督渡辺一巳(関学)コーチ勝繁夫(立教)優勝スウェーデン、日本7ヶ国中7位]との出会いです。浅野さんが社会人となってまだ間もない頃でしょうか、当時関西学生リーグで各大学のトッププレイヤーだったOBを集めてクラブチーム「関西球友会」を作られた事があり、私達と一緒に練習する機会が何度かありました。当時大阪のクラブチームでは日体大OB選手を集めた大阪イーグルスが飛びぬけて強かったため、浅野さんの性格から「打倒イーグルス」の思いで力を入れられたのだらうと思います。当時のトッププレイヤーの方々と一緒に練習した経験は私にとって強烈なインパクトで、その時以来私の憧れ(目標)の選手になりました。

世界学生選手権 ~男子のみ~

◆ 第1回

(1963年(昭和38)1月1日~6日・スウェーデン、参加7ヶ国)

▽予選リーグA組

スウェーデン²⁶ (13-3 / 13-12) 15日 本

デンマーク 24-17 スペイン

スウェーデン 22-12 スペイン

デンマーク³⁴ (13-6 / 21-5) 11日 本

スウェーデン 17-11 デンマーク

スペイン³¹ (14-3 / 17-6) 9日 本

▽同B組

西ドイツ 14-13 ノルウェー

ルーマニア 22-11 ノルウェー

西ドイツ 16-15 ルーマニア

(注) B組に参加予定のブルガリアは棄権。このため、7・8位決定戦は行なわれず、A組4位の日本が自動的に7位。

▽5・6位決定戦

ノルウェー²² (- / -) 18スペイン

▽3・4位決定戦

ルーマニア²⁷ (- / -) 18デンマーク

▽決勝戦

スウェーデン¹⁴ (- / -) 11西ドイツ

【優勝メンバー・スウェーデン】

監督/マツソン GK/サルナス、ソールバーク FP/ヨハンソン、リンドブラド、アテリング、スコグランド、P・オルソン、バアルド、リマン、リッカートソン、L・オルソン。

〔日本代表〕団長/棚橋義輝(関東学連会長) 監督/渡辺一巳(関学OB) コーチ/勝繁夫(立教OB) GK/谷義信(芝浦工大) 奥本義昭(同志社) FP/安達精太、与瀬義昭、中根敏男(以上立教)、諏訪紀一(慶応)、坂井弘元(中央)、藤原侑(日体)、田口敬蔵(法政)、森末和裕、村田陽光(以上関学)、大高慎貴(甲南)、荘林康次(神戸大)、浅野和郎(京大)、市原則之(広島商科大)。

男女とも東軍が連勝

全日本学生
東西対抗

第21回(女子第3回) 全日本学生選抜東西対抗は9月18日午後2時5分から名古屋の愛知県体育館で行われ、男女とも攻撃力に優る東軍(東北北海道、北信越、関東)が昨年につづき快勝した。通算成績は男子・東軍13勝8敗、女子・東軍2勝1敗(観衆三千)

西軍の反撃遅し

▽男子
東軍 18(9-3) 西軍 12
☆……両チームともにコンビネーションがもう一つ整わず、特に西軍の立ちあがり凡ミスが目立ちそのスキを松、佐藤要らの個人技でつかれた。

前半12分3-0のあと西軍は夏目が初ゴールをあげたが、東軍も16分、17分松の連続得点で主導権をはなさなかった。

後半も東軍のペース、5分には12-4と差がついた。東軍が要所は日体大5名を繰り出して相手の動きを封じこめたのに対し、西軍はひんばんに選手を交代させ最後までコンビがとれずに終わった。オールスターゲームの難しいところであろう。

一西軍は後半6分から川上、中村らの個人技でポイント、21分には

9-15まで盛り返したものの大勢をくつがえすにはほど遠かった。

東軍、前半で勝負決める

▽女子

東軍 11(9-1) 西軍 4

★……東軍が巧いスタートを切った。1分30秒木村、2分10秒藤沢で先行、9分にも福田がゴールを決めた。ペースにのるとかなり思い切ったプレーを見せるのが最近の女子の傾向、この日の東軍がまさにそれでのびのびとした攻撃を展開、一方的に得点を重ねた。西軍は16分安井がジャンプシュ

ートを決めただけで勝負はあっけなく前半でついでにしまった。

後半になって西軍もスムーズな動きを示し、相手を上廻る場面もあったが11分4-10としたのが精いっぱい。

東軍の攻撃はパス、ランニングコースとも鋭さがあり、つねにシュートへの意欲がみうけられ、速攻にも迫力があった。西軍はチームとしてのプレーがまとまらず特に立ちあがり、あっさり得点を与えたのが最後までひびいた。全日本学生 ▽男子組合せ1回 組合せ速報 戦、①福岡大×関勝者

得	【東軍】	【西軍】	得
0	高橋誠	森友	0
0	馬松	坂上	0
3	0	川松	1
0	5	川松	0
1	0	川松	1
1	3	川松	0
3	1	川松	0
0	0	川松	3
0	4	川松	0
0	0	川松	0
4	0	川松	0
0	0	川松	0

18 (0) 7MT (1) 12
▽審判=鈴木四, 奥村

得	【東軍】	【西軍】	得
0	大工原	柿田	0
0	0	田谷	0
0	0	辻	0
1	0	和歌	0
3	1	乘正	0
1	4	継玉	0
4	0	岡	1
0	0	宮白	0
0	0	田安	0
0	0	佐安	0
0	0	佐安	1
0	0	佐安	1
0	0	佐安	0

11 (0) 7MT (0) 4
▽審判=浅野, 赤松

浅野さんとのエピソードを少し紹介したいと思います。当時朝日新聞社の後援で全日本学生選抜ハンドボール東西対抗戦(第1回大会1948年西宮)が毎年開催されてきました。私は第20回(1970年)、第21回(1971年)と続けて出場しましたが、4年

生の時(1971年愛知県体育館)学生の身で名古屋への遠征費用も大変だろうと言う事で、当時浅野さんの勤務先であった東銀名古屋支店の空き社宅を急遽遠征宿泊先に提供して頂きました。まだ新婚間もないお二人でしたが歓待して頂き、たいへん嬉しか

った事を思い出します。後日談もあるので、それは別の機会にとっておきたいと思います。浅野さんは東銀～東京三菱の役員を経てイオンクレジットサービスの会長になられ、年齢的にもまだまだご活躍をされるものと思っておりましたが若くして急逝されました。OB・OG会を指導頂き、今回の部誌にも寄稿して頂きたかったのですが本当に残念です。

高校時代に話を戻しますが、2年生になってからは林さんに代わって佐藤さん(17期)によく指導して頂きました。佐藤さんは当時関西学生2部リーグ(阪大)で活躍されておられましたので、練習は7人制の新しい技術や合理的な練習方法を中心にしたもので、中身はたいへん厳しいものでした。同期は勿論ですが、下級生の井崎、稲葉、大地、高津、早島は元々運動能力の優れた選手でしたがよく練習について来てくれ、夏合宿を経て秋を迎える頃には1年生ながら基本のしっかり出来た選手に成長していました。これは自慢話ですが、当時体育の授業でスポーツテスト(50m走、懸垂、走り幅跳び、ハンドボール投げ、1500m持久走の5種目、各20点で100点満点)がありました。ハンドボール部はAクラス(80点以上)をとる部員が多く、他のクラブをリードする存在でした。私自身も満点に近い成績だったと記憶しています。又、体育祭最後を飾るクラブ対抗リレーでは陸上競技部を負かす程でした。実際ハンドボールの実力でも、当時大学2部チームとの練習試合を経験させてもらいましたが、キーパー早島と稲葉、井崎両サイドによる速攻、高津のサウスポーからのミドルシュート、森田、大地のディフェンスなどがうまくか

み合い、ほぼ互角に戦えるまでになっていました。短期間でこれだけまとまったチームに成長できたのは部員の努力もありますが、佐藤さんの厳しい中にも情熱溢れる指導に依るところが大きかったと思います。佐藤さんは今もシニアリーグで生涯スポーツとしてハンドボールを続けておられます。私も大いに刺激を受け、体が動ける間はぜひ一緒にいたいと思っています。

私達の学年は残念ながら近畿大会出場を果たせませんでした。忘れられない試合として2年生の大阪府新人大会があります。前評判では優勝候補筆頭に佐野工業高校、次に豊中高校の名前が挙がっていました。高津は全くノーマークだったのですが、私達は勝ち進み両校を負かして準決勝まで駒を進めました。相手は都島工業高校でしたが、試合前北岡先生(都島工業顧問)が近づいて来られ、敵である私に勝利のエールを贈られました。今から思えばこれは先生の作戦だったのですが、未熟な私は全くそれとは気付かず、無欲で戦ってきた私達はすっかり油断をしてしまったのです。試合が始まると私はマンツーマンで執拗にマークされ続け、結局僅差で負けてしまいました。キャプテンとしての不甲斐なさを味わいましたし、戦いはコートの上だけではない事も思い知らされました。チームメイトには勿論、優勝を信じてわざわざ会場まで応援に駆けつけてくれた校友にも申し訳なく、本当に悔しい思いをした試合でした。

ハンドボール部の先輩の中には尊敬する先輩がたくさんおられます。その中でも榎本さん津田さん(7期)には本当に永い間お世話になりました。お二人は高校と大学(関学)共ハンドボール部の先輩ですが、

大学時代に日本一（11人制）を経験されました。（当時関学は関西で常勝の強豪チームで7度日本一になっています）お二人の話によりますと、現役時代大学の練習を高校に持ち込まれ相当厳しく後輩達を指導されたようです。練習内容は今でも語り草になっていますが、それが高津ハンドボール部の第1期黄金時代に繋がって行ったのだらうと思います。卒業後榎本さんは丸善石油～コスモ石油の専務になられ、退職後は関学ハンドボール部OB会会長も務められま

した。コスモ石油時代のご経歴から財界との人脈も幅広くお持ちで、現在も多方面で活躍されておられます。津田さんは大学卒業後ドイツの会社に就職、地元のクラブチームでドイツ人と一緒にハンドボールをされました。当時のハンドボール界では本当に珍しい事だったと思います。国際感覚を身につけられた後、大阪ミナミでアパレル関係の会社を経営され成功を収められました。お二人には今も公私にわたりご指導頂いています。

出場選手（関西学生選抜チーム）

監督 中江 義雄 Y. Nakae 同志社OB 同志社大学ハンドボール部監督
 コーチ 飯端 寿昭 T. Iibata 関学OB 三国丘クラブ主将
 “ 山崎 武 T. Yamasaki 日体大OB 大阪体育大学ハンドボール部監督
 主務 伊谷 勝幸 M. Itani 追手門学院 関西学生ハンドボール連盟企画部長

姓	名	名所属チーム	出身高校	身長	体重	背番号
入江	修一	S. Irie 関西大学4年	桜塚高校	174	64	1 (G.K)
土田	英夫	H. Tuchida 桃山学院4年	乙訓高校	173	64	2
脇田	俊幸	T. Wakita 大阪経済4年	県和歌山商	178	59	3
清水	正広	M. Simizu 大阪経済4年	乙訓高校	173	62	4
小林	士郎	S. Kobayasi 大阪外国語4年	天王寺高校	178	68	5
中野	孝志	T. Nakno 同志社4年	枚方高校	176	62	6
中井	武三	T. Nakai 同志社4年	伏見工業高	180	74	7 (主将)
松井	昭二	S. Matui 同志社3年	桜台高校	174	64	8
宮松	久大	H. Miyamoto 関西大学3年	桜台高校	174	63	9
川上	貴司	T. Kawkami 関西学院3年	高津高校	166	68	10
藤井	勉	T. Fuzii 大阪体育3年	淀商業高校	173	63	11
岩田	豊秋	T. Iwata 同志社3年	枚方高校	176	67	12(G.K)

レフリー 東 嘉伸 光 島 磯 雄



後列 1. 光島磯雄 (日体大)・レフェリー 2. 飯端寿昭 (関学)・コーチ 3. 東 嘉伸 (日体大)・レフェリー 4. 村田 弘 (右から6番目) (三国丘～日体大) 元 高津高校ハンドボール部 顧問
 前列 中江義雄(左端)・監督 川上貴司(右から6番目)

第4回日韓学生国際親善ハンドボール大会

1970.7.5 大阪中央体育館

関西学生選抜 18-19 成均館大学

中江義雄さん(10期)にもたいへんお世話になりました。朝日新聞社に勤務の傍ら同志社大学の監督もされておられましたので、ライバル校として関学との対戦も数多くありましたが、3年の時、第4回日韓学生国際親善ハンドボール大会が大阪市中央体育館であり、監督中江さん、コーチ飯端寿昭さん(関学)で必勝を期し試合に臨んだ事があります。観客もたくさん詰めかけ、会場は1点を争う好ゲームに大いに盛りまりました。結果はエース中井選手(同志社～大同製鋼)の欠場が響き19-18で負け、残念ながら監督・コーチに勝利をプレゼントでき

ませんでした。しかし、私にとっては高校・大学の先輩と一緒に戦えた事、又、私の初めての国際試合出場と言う事で両親を招待し、ハンドボールを知らなかった2人に初めて観戦をしてもらった事、そしてアクシデント(後述)以来競技を続ける事に反対していた両親が、私が5点ゲットしてチームに貢献する姿を間近に見て安心したのかたいへん喜んでくれた事などが幸いし、私の心のわだかまりもすっかり消えてプレーに自信がつくと共に、成長への転機となった特別な試合になっています。中江さんはハンドボールに対して人一倍熱い情熱を持

っておられ、今も関西学生ハンドボール連盟の会長に就かれ斯界の為に貢献されておられます。高校・大学・社会人、そして現在に至るまで一貫してハンドボールに取り組まれておられる姿勢には本当に頭が下がる思いです。

額田晃作さん(5期)は現役の歯科医として診療の傍ら、芸術家としても年齢を感じさせない旺盛な創作活動を続けておられます。私は直接指導して頂いた事はありませんが、母校への愛校心やハンドボール部にかける情熱にはいつも圧倒されています。額田さんとはハンドボール部以外でも同窓会の副会長として同窓会誌「群芳」の編集で一緒させて頂きました。私のオフィス

には額田さんのモチーフである「薔薇」の絵が掛かっています。何かで悩んでいる時、「しっかりせんかい」と叱咤激励の声が聞こえて来ようです。年を重ねてもハートにはいつも額田さんのように青年の気概を持ち続けていたいと思います。

私は大学2年生の春大きなケガをしました。当時学園紛争の嵐が日本中の大学で吹き荒れていたのですが、関学キャンパスでも状況は同じでした。心ない全共闘学生の投石が私の顔面に命中し負傷したのです。救急車で病院へ運ばれ手術を受けましたが残念ながら片方の視力を失い、以後ハンディを背負って生きて行く事になりました。ボール競技では殆んど選手生命が絶たれた事になります。医者からは健康な眼へのリスクもあり、遠近感の喪失を考えると競技を続ける事は難しいだろうと言われま

した。暗闇の生活がしばらく続き、考える事は悪い事ばかりでした。親には高校1年夏合宿、そしてこの時のケガと2度心配を掛けてしまいました。入院中は大学のチームメイトを始めたくさんの方が見舞いに来てくれました。一時は悲観的になりハンドボールを諦めかけていましたが、当時関学ハンドボール部の監督(渡辺一巳さん、豊中高~関学)から「たとえ片方の目が見えなくても人間には心眼というものがある、お前なら絶対できる、やってみろ」と励まされました。その言葉に私は心が震え、もう一度大好きなハンドボールをやってみようと思ったのです。渡辺さんは、榎本さん、津田さんの学年を始め関学を何度も学生

10/20 読む
片目の勝ち越しインタビュー

十九日、大阪府立大学で行なわれた関西学生ハンドボールリーグの関学大経大戦に、学園紛争のさなか全共闘派学生の投石で左目に重傷を負った関学の川上貴司選手(三〇)が復帰して元気なプレーをみせた。

川上選手は三月二十三日、関学での「全関学人総決起集会」で起こった全共闘派学生との衝突事件で、左目に重傷を負い、西宮市の吉本外科病院に収容。その後、高槻市の大阪大病院に移り約二か月間療養、診断の結果、右目の視力は1・2と正常だが、左目は強膜断裂、眼瞼裂傷、眼内出血でまったく見えず、来年二月に同病院で再手術するが、まだ失明のおそれもあるという。

療養中は渡辺監督や部員、家族をもとを抜いて勝ち越しのシュートを決めた。負傷前は右目に左サイドに強い決意をみせた。

みごと再起

関学紛争で重傷の ハンドボール部員

◇関西学生ハンドボールリーグ第二日(19日・大阪大) 関学(11816)大経大(917)に守られて五月に退院、母校のグラウンドに立った。そして「もう一度ハンドボールを捨てたくない」と、再起への練習にはいった。片目では距離感がつかめないと心配されたが、ふしぎにそれはなく、パス、シュートの正確さますます猛練習をつづけた。この日のポジションは右サイド。D-1の前半6分30秒、倒れこみながらゴール・キーパーの足もとを抜いて勝ち越しのシュートを叩きこみ、チームをまめた。

右からもシュートできるようにと特別に練習、それがめぐりに結実した。「いままでは強引なシュートが多かったが、かえってそれがなくなつた」という。この日もポイント・ゲッターの細井選手とともに5得点をあげる活躍ぶり。

各地で激化する学園紛争について「最近の紛争は学園のワケを越えている。全共闘が暴力で大衆を服従させるというやり方には抵抗を感じる」と、ほくらは力で仕返しすることはできない。そこにジャンルを越えて、学問防衛、

王座に導き、浅野さんが出場した第1回ユニバーシアード大会の監督、そして打倒大崎電機を旗印に木野実さん（立教～湧永）市原則之さん（湧永～JOC専務理事）早川清孝さん（日体大～湧永、故人）など、当時日本を代表するトッププレーヤー達を集めて湧永製薬ハンドボール部創設に関わり初代監督を務められた伝説の方です。そんな関係もあって湧永創部当初は関学と本当によく練習をしました。当然の事として

私達はみるみる実力がつき、2年生の関西学生秋季リーグで同志社を抑え優勝する事が出来ました。今振り返ってみますと、高校・大学を通じ幸運にも素晴らしい方々とのご縁（出会い）に恵まれ、本当に充実した競技生活を送る事が出来たと感謝しています。

3年生の春の再手術後、私は大学での練習以外多くの時間を自主練習に費やしました。感覚を取り戻すまでには、つらい事も

全日本男子			全日本学生選抜		
(オリンピック第2次候補選手)			(韓国遠征候補選手)		
監督 村田 弘			監督 中沢 重夫		
コーチ 竹野 奉昭			マネージャー 奥田 祥一		
GK 1	下 里 敏 彦	大崎電気 184	GK 1	馬 淵 豊 明	立教大 179
12	本 田 洋	大阪イーグルス 178	12	森 友 通 夫	大阪経大 181
17	大 村 久	全日体大 178	FP 2	松 原 光 三	日体大 180
FP 2	飯 田 誠 行	大崎電気 188	③	佐 藤 要 二	中央大 176
3	有 永 修 二	東京海上 187	4	佐 々 木 健 一	中央大 176
4	平 岡 秀 雄	東京教員 183	5	明 石 雄 次	芝浦工大 178
5	斉 藤 光 男	群馬教員 183	6	大 江 隆 夫	芝浦工大 172
6	木 野 実	湧永薬品 180	7	荒 井 正 人	法政大 177
7	早 川 清 孝	湧永薬品 180	8	松 井 昭 二	同志社大 174
8	中 井 武 三	大同製鋼 180	9	川 上 貴 司	関 学 167
9	新 実 俊 夫	芝浦工大 180	10	中 村 博 之	大阪体大 178
10	永 海 正 行	日体大 180	11	川 口 啓 一	名城大 175
11	東 一 敏	大崎電気 179	13	夏 目 真 治	中京大 180
13	藤 中 憲 二	大崎電気 179	14	宮 松 久 夫	関西大 174
14	花 輪 博	中央大 177	15	小 原 由 幸	金沢大 176
⑮	近 藤 信 行	大崎電気 171	16	山 本 信 一	仙台大 175
16	野 田 清	大同製鋼 169	17	木 原 秀 樹	松山高大 174
ユニホーム ①赤			18	銅 沼 敏 雄	名城大 173
②白			19		
			ユニホーム ①紺		
			②		

写真左から

※オリンピック代表選手

1. 松原光三※
(日体大～大同製鋼)
3. 川上貴司 (関学)
4. 佐藤要二※
(中央大～本田技研)
5. 大江隆雄※
(芝浦工大～三菱レイヨン)
6. 佐々木健一※
(中央大～三景)
7. 馬淵豊明 (立教大)
8. 明石雄次 (芝浦工大)
9. 中村 博 (大體大)



全日本学生選抜チーム（胸に日の丸をつけて）
1971.7 海外遠征（韓国）時

ありましたが努力は嘘をつかないものです、3年生の秋で関西学生選抜選手に、4年生ではミュンヘンオリンピックに向けて8年振りに編成された全日本学生選抜軍の一員として海外遠征も経験させて頂きました。両親や医者から反対された復帰への挑戦でしたが、高津ハンドボール部で培われた精神力や、その他多くの方々から頂いた温かい励ましが心の支えとなり、夢の実現に向かって頑張る事が出来ました。あの時、渡辺

さんにかけて頂いた言葉は本当に現実のものとなりました。心に響く言葉は人生を変え、その人の未知の力を引出してくれます。残念ながら現役時代にミュンヘンには行けませんでした、浅野さんと同じステージに立て、何とか所期の目標(高校時代の夢)に近づけたのではないかと自負しています。

私は卒業後大阪を離れ5年程のサラリーマン生活を経て家業に戻りましたが、関学ハンドボール部OB会からの要請で家業の

入替戦が大正大 18-16 関大

よみがえった関学ハンドボール

関学のハンドボール部が、関西学生秋季リーグから1部に復帰して話題を呼んでいる。リーグ最高の25回優勝、全日本学生の王座に6年連続



ついた実績をもつ同部。ところが、47年秋に2部転落以来、不振を続けた。今回の復帰は実に8年ぶり。その裏には男のドラマがあった。監督の川上貴司さん(三三)である。

学園紛争のあらしが吹き荒れた44年春、当時三年生だった川上さんは、全共闘派学

生の投石で左目に重傷を負った。それでも、川上さんは、家族やOBを含めた部員の励ましに守られて再起、その秋のリーグから出場した。

先輩監督の努力実る



川上貴司監督

「母校がどんな状態か知らなかった」川上さんに、思いもかけずコーチの話が持ち上がったのは52年8月。父、孟男(たけお)さんの病気で、家業を継ぐため大阪へ戻った

川上さんに、当時の監督、日向宏さんから「技術を教えてやって」と要請されたのがきっかけ。久しぶりに部を見た川上さんは「これほど」とびっ

くりした。女の子を助手席に、車で乗りつける選手。部屋でたばこを平気で吸う。無断で練習を休む。統制がとれ、マナーにやましかった。現役時代では考えられない乱れよう。川上さんは技術以前の問題から直していった。まず車での通学をやめさせ、部室での喫煙も厳禁。もちろん川上さんも日に30本吸っていたばこをやめた。日常生活の乱れを正した部は徐々に力をつけていった。監督となつて2年目、悲願の1部復帰。「生まれて初めての胸上げはうれしかった。何かいいなかったが言葉にならない。涙をこぼすまいと精一杯でした」感激のさめやらない川上さん。「今度は1部優勝を」と、夢をふくらませる。

(足立)

傍ら監督を（1980年～1992年）務めました。大阪を離れている間、学園紛争のダメージが響き一気に3部リーグまで転落、一時は廃部の危機も経験しましたが、榎本さん、津田さん、服部さん（10期、元関学ハンドボール部OB会会長、故人）、土田さん（13期）他、多くの先輩方の物心に亘るサポートで1部復帰を果たし、近藤信一郎さん（中21期、元安田火災常務、関学初代キャプテン）が中心となり1946年に創部された関学ハンドボール部の伝統を繋いでいます。又、監督経験を通じ、来年70回を迎えるハンドボール界で最も古い定期戦（早稲田・関学ハンドボール定期戦）や、関学に対して寄せられる各方面からの話に触れるにつけ、現役時代には分からなかった伝統の重みを実感すると共に、伝統を繋ぐ地道な努力の大切さや社会人として必要な多くの事を学びました。

高津高校においては、太田寛人君（30期）がハンドボール部顧問として母校に赴任後熱心に現役を指導してくれていましたので、額田さんを始め多くの先輩から「彼を応援しようではないか」という機運が高まり、

2004年5月、「OB・OG会」が結成され、以後物心両面で現役支援活動を続けています。今年「OB・OG会」発足10周年を迎え、この度「新部誌」を発行する運びになりましたが、これを機に「OB・OG会」の皆さんには3世代70年続くこの伝統あるクラブを次の世代に繋いで頂き、現役諸君には文武両道の精神を忘れず、部顧問の指導の下高い目標（夢）に向かって日々努力し、高津ハンドボール部黄金時代の復活を是非実現してもらいたいと心から願っています。

最後に、私の入院中遠方まで見舞いに来てくれた佐藤（稔）、塩谷（旧姓 定）23期、男女両キャプテンを始め、今まで心配を頂きながらご無礼していたコーチ時代の部員の皆さんに、この紙面をお借りして改めてお礼を申し上げますと共に、多くの高津の卒業生が大学リーグ戦で活躍する姿や、いつの日か母校からオリンピック選手が出る事を夢見て皆さんへのメッセージにさせていただきます。

私の原点「高津高校ハンドボール部」に
栄光あれ！